

平成28年度医薬分業指導者協議会
かかりつけ薬剤師・薬局に関する地域の取り組み報告

平成28年度

薬局のかかりつけ機能の強化事業

～同行訪問(OJT)等によるかかりつけ薬剤師の育成等～

埼玉県保健医療部薬務課

薬局のかかりつけ機能強化推進事業

～ 「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けて ～

埼玉県保健医療部薬務課
予算額: 4,900千円

「患者のための薬局ビジョン ～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～」(平成27年10月23日付厚生労働省)策定の趣旨

ビジョンは、経済財政諮問会議や骨太の方針を受け、患者本位の医薬分業の実現に向けて、今後の姿として薬局が持つべき3つの機能
①服薬情報の一元的・継続的把握、②24時間対応・在宅対応、③医療機関との連携
を柱として明らかにするとともに、中長期的視野に立って現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋を提示するものである。

➡ 2025年までに、すべての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指す。

ビジョンの基本的考え その1 ～バラバラから一つへ～

★患者は、服薬情報が一つにまとまり、飲み合わせの確認や残薬管理など安心できる薬物療法を受けることができる。

服薬情報の一元的把握等対策講習会の開催

<H26～27の取組>

- 自宅を訪問、残薬全ての把握、原因の調査
- 日常生活に合致するような個別的で具体的な服薬支援

目的

- ①残薬対策の成果を県内の薬剤師に広く周知し、取組を促す。
- ②多剤・重複投与や相互作用の防止に関する取組も促す。
- ③介護関係者の講習会等を通じて薬剤師の取組内容を周知し、連携のきっかけづくりとする。

事業内容

- ①講習会用リーフレット作成
残薬取組結果の事例(H26～27)、成果等を見える化
- ②薬剤師への啓発
各地区で講習会を実施し、成果を周知し取組を促す。
- ③介護職等への情報提供
他職種の講習会に出向き残薬の取組を周知し、連携のきっかけづくりに活用

ビジョンの基本的考え その2 ～立地から機能へ～

★門前薬局などの立地の便利さだけで選択される存在から脱却し、在宅対応等の様々な患者ニーズに対応できる機能を通じて選択してもらう。

同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成事業

問題意識

埼玉県には2,765件の薬局の内、在宅患者調剤加算の届出薬局が534薬局(H28.4)しかいないため、在宅対応を実施できる薬剤師を育成し、在宅対応薬局を増やす必要がある。

目的

経験豊富な地域薬剤師の同行訪問による実践形式の研修により人材の育成を図る。(OJT)

事業内容

- ・講師(OJT)養成研修の実施
- ・経験豊富な地域薬剤師が在宅訪問に同行

事業効果

- ・在宅訪問のできる薬局・薬剤師の迅速な育成
- ・地域薬局間連携により小規模薬局でも在宅訪問が実現

ビジョンの基本的考え その3 ～対物業務から対人業務へ～

★専門性等の向上を通じ、住民等との関わりの高い対人業務へとシフトを図る。

薬剤師の受診勧奨能力向上研修会

薬剤師が「発疹」症状を例に、医療機関受診の必要性や一般用医薬品対応判断(トリアージ)能力向上研修を実施し、県内薬局に広く周知する。

平成28年度

「患者のための薬局ビジョン推進事業」

地域全体のかかりつけ薬剤師・薬局機能強化のための
連携推進事業

～同行訪問(OJT)等による
かかりつけ薬剤師の育成等～

一般社団法人埼玉県薬剤師会

患者のための薬局ビジョン推進事業として かかりつけ薬局・薬剤師の育成について検討



ステップアップ講習会を活かした実践的な研修ができないか？

同行訪問(OJT)によるかかりつけ薬剤師の育成

目的

在宅医療においてかかりつけ薬剤師に求められる役割、どのような職種と、どのような連携が必要かを知る

受託事業の概要

平成28年度薬局のかかりつけ機能の強化事業

(1) 服薬情報の一元的把握等対策講習会の開催

- ア 平成26年度・27年度に実施した「高齢者等の薬の飲み残し対策事業」で得られた成果を踏まえ、薬剤師による残薬・重複投与・不適切な多剤投与を減らす効果的な取組みを県内全域に普及させるための講習会を実施
- イ 地域包括ケアシステムにおいて薬剤師が担える「残薬対策等の取組み」紹介等を通じ介護関係者等多職種との連携促進を図る

(2) 同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成

- JT(同行訪問)による患者宅での実地研修を実施することにより、「在宅医療」に対応できる薬剤師を育成することを目的に、次の事業を実施
- ア 在宅に係る経験が豊富な薬剤師を講師として養成するための研修会の開催
- イ 経験豊富な薬剤師の○JT(同行訪問)による実践形式の研修の実施

(3) 薬剤師の受診勧奨能力向上研修会の開催

- 薬局における服薬相談時に患者の自覚症状により医療機関への適切な受診勧奨や一般用医薬品(OTC)服用に関する判断の能力向上を図る研修会を開催

同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成

同行訪問(OJT)による在宅訪問薬剤師の育成事業の概要

ア 在宅に係る経験が豊富な薬剤師を講師として
養成するための研修会の開催

- ・研修会開催日 平成28年9月25日
- ・受講者数 23人(複数回同行/1人)

イ 経験豊富な薬剤師のOJT(同行訪問)による
実践形式の研修の実施

- ・研修実施期間 平成28年10月6日から12月27日
- ・受講者数 75人(1回訪問/1人)
- ・訪問先別受講者数
 - 患家 55人
 - 施設 13人
 - 患家と施設の両方 6人 } 居宅療養管理指導を実施
- 患家 1人 在宅患者訪問薬剤管理指導を実施

在宅医療推進 ステップアップ講習会

在宅医療
ステップアップガイドブック

一般社団法人
埼玉県薬剤師会

平成24年度開始

- ステップ1 在宅薬学管理(初めての訪問)
- ステップ2 在宅薬学管理(アセスメント)
- ステップ3 緊急時等共同指導
- ステップ4 無菌調剤実習
- ステップ5 緩和ケア

ステップ3 シナリオ5

背景および登場人物
背景：佐々木さん宅に、薬局薬剤師、ケアマネ、介護士、ヘルパーが集まって在宅患者緊急時共同指導を開催します。

薬局薬剤師 ケアマネージャー 介護士 ヘルパー 患者

一多職種で連携するー(在宅患者緊急時共同指導)

ケアマネージャー：本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。それでは、これから佐々木さんの担当者会議を始めます。佐々木さん退院おめでとうございます。

患者：ありがとうございます。

ケアマネージャー：佐々木さんは、軽い脳梗塞を起し入院していました。左側にわずかな麻痺がありますが、元気に退院する事ができました。しかし、退院後もリハビリを続けておく必要があると先生からお話がありました。介護士さん、デイサービスにリハビリを組み込んでいますが様子はいかがですか？

介護士：はい、当施設には歩行訓練のリハビリもご用意です。それと手、腕のリハビリ訓練も行っているのですが、とてもまじめに取り組んでいただいていますよ。

ケアマネージャー：佐々木さん、デイサービスのリハビリはどうですか？ きついですか？

患者：いや、病院にいるときから続けているので大丈夫だよ。動きは悪いけど、だいたい寝も上がるようになったね。

薬局薬剤師：もうお家の整理ができていますね。

薬局薬剤師：持ってきた脳薬ゼリーを使ってうまくスプーンで飲んでるようです。飲み忘れているようであれば、午前中のヘルパーさん、ゼリーを使って飲んでもらえるように手伝ってくださいね。

ヘルパー：わかりました。今のところうまく飲んでるようです。お薬カレンダーは、薬をいつも通りきちんと飲んでる事がわかるので便利です。

薬局薬剤師：傾下状態も気になります。傾下体位などどうでしょうか？

介護士：食事の前に傾下体位は行っています。みなさん結構楽しくやっていますよ。

薬局薬剤師：脳梗塞の再発予防のために、お薬が追加になっています。血液をサラサラさせるお薬です。このお薬は、肝機能の確認とあさなどの出血傾向のチェックが必要です。もともとアルコール性肝炎の治療もしていますが、お薬の影響は今のところ見られません。服薬している間に倦怠感が強いなどいつもと違う状態が見られる場合は、早めに受診をお願いいたします。また、デイサービスさん、入浴の時に体にあざができていないか確認をお願いしますね。あざが出ているような場合も勝手に中止しないでぜひ連絡をください。こちらから先生に相談しますので。

介護士：わかりました。

ロールプレイング用 テキスト



OJT研修

内容 在宅訪問の経験のある薬剤師と、未経験または経験の浅い薬剤師が同行し、経験者が指導・助言をする実践形式の研修

方法

パターンA: 講師薬剤師の担当する在宅(居宅)患者宅に訪問する

パターンB: 受講薬剤師の担当する在宅(居宅)患者宅を訪問する

＜講師薬剤師は実務実習指導薬剤師を対象に協力依頼を行った＞

報告

講師薬剤師は報告書を作成し薬剤師会に報告

受講薬剤師は報告書とアンケートを作成し薬剤師会に報告

在宅訪問薬剤師の育成にご協力を

埼玉県委託事業
 “平成28年度薬局のかかりつけ機能の強化事業”
 ～同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成～



◆事業内容◆

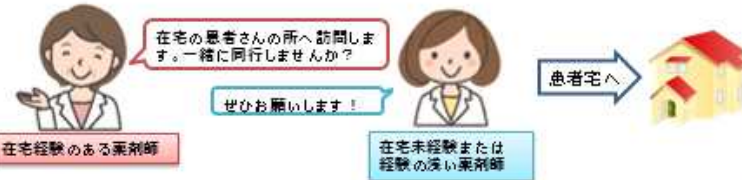
目的 在宅医療に対応できる薬剤師を育成する

概要 在宅訪問の経験がある薬剤師と未経験または経験の浅い薬剤師が同行し、経験者が指導・助言をする実践形式の研修
 (イメージ: 薬学生の実務実習)

在宅訪問薬剤師育成のため、指導・助言が可能な在宅経験のある薬剤師募集！ 報酬は同行者1名につき1万円

(1) 同行パターンA

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師の訪問に同行し、指導・助言を受ける。



(2) 同行パターンB

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師に患者宅へ同行してもらい、指導・助言を受ける。
 (未経験薬剤師が経験のある薬剤師の同行を希望するパターン)



OJT(同行訪問)の受講者を募集します

埼玉県委託事業
 “平成28年度薬局のかかりつけ機能の強化事業”
 ～同行訪問による在宅訪問薬剤師の育成～



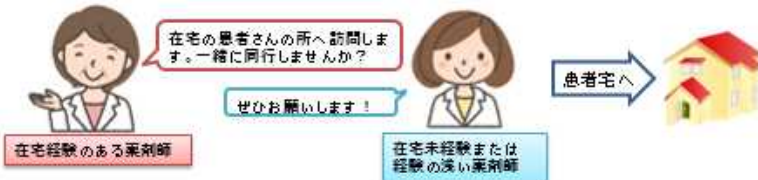
◆事業内容◆

目的 在宅医療に対応できる薬剤師を育成する

概要 在宅訪問の経験がある薬剤師と未経験または経験の浅い薬剤師が同行し、経験者が指導・助言をする実践形式の研修
 (イメージ: ステップアップ講習会step1～3 ロールプレイの実践編)

(1) 同行パターンA

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師の訪問に同行し、指導・助言を受ける。



(2) 同行パターンB

未経験(経験の浅い)薬剤師が経験のある薬剤師に患者宅へ同行してもらい、指導・助言を受ける。
 (未経験薬剤師が経験のある薬剤師の同行を希望するパターン)



報告書について

OJT報告書

報告者氏名		研修パターン		A		B		
報告者所属薬局名		訪問先市町村						
受講者氏名		講師氏名						
実施日	月	日()	訪問先	年齢	才	性別	男・女	介護度
実習内容								
実施							備考	
<input type="checkbox"/> 契約書の交わり方 <input type="checkbox"/> 残薬の整理の方法 <input type="checkbox"/> 服薬管理方法の提案 <input type="checkbox"/> 服薬内容の検討 <input type="checkbox"/> 服薬状況の確認と体調の変化の確認 <input type="checkbox"/> 療養環境の把握 <input type="checkbox"/> 他のサービス内容の確認 <input type="checkbox"/> ケアマネの確認 <input type="checkbox"/> 嚥下状態の確認 <input type="checkbox"/> 報告書・薬歴の作成方法 <input type="checkbox"/> 医師やケアマネなど他職種とのかかわり方について <input type="checkbox"/> 残薬の保管方法 <input type="checkbox"/> 一部負担金の受け渡し方法 <input type="checkbox"/> 麻薬の適正使用(適宜) <input type="checkbox"/> 輸液の適正使用(適宜)								
<研修報告>								

研修内容の統一化を図るため、講師薬剤師と受講薬剤師、両者とも同じ報告書を利用した

・在宅で行われるさまざまな業務について、一体的な意見聴取ができた。

・自由記載の報告欄については、内容にばらつきはあるものの、目的の達成には充分である記述であった。(詳細例後述)

アンケート(受講者のみ)

OJT同行訪問実施後アンケート

実施：埼玉県薬剤師会

- このアンケートの目的は、在宅患者への同行訪問をしたことで、みなさんの意識や能力がどのように変化するかを調べ、その効果を確認することです。
- 全体をまとめて集計いたしますので、個人は特定されません。
- お名前や薬局名を記入する必要はありません。
- 本文中で在宅患者訪問薬剤管理指導とあるのは、居宅療養管理指導も含みます。

A-薬剤師属性

Q1. 当てはまる性別をお選びください。

1. 女性
2. 男性

Q2. 当てはまる年代をお選びください。

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代
6. 70代以上

Q3. 当てはまる職種と()の中もお選びください。

1. 管理薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)
2. 管理薬剤師ではない常勤薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)
3. 非常勤薬剤師 (本会会員 ・ 会員外)

Q4. 薬局での勤務年数をお答えください。(当該薬局での勤務ではなく、今までの薬局での経験年数) () 年。

Q5. これまでに、在宅患者訪問薬剤管理指導を行ったことがありますか。

1. ある・経験年数 (年前から 回/年くらい)
2. ない・その理由 ()

Q6. これまでに、無菌調剤を実施したことがありますか？

1. ある・場所 (現在の勤務薬局 ・ 他の薬局 ・ 病院)
2. ない

B-薬局属性

Q1. 現在、勤務している薬局の所在地

()市町村()区

Q2. 現在、勤務している薬局の調剤基本料の区分

1. 調剤基本料1
2. 調剤基本料2
3. 調剤基本料3
4. 調剤基本料4
5. その他

Q3. 現在、勤務している薬局の薬剤師数を教えてください(常勤・非常勤は問いません。合算人数を記入)

(計)名

Q4. 現在、勤務している薬局の無菌調剤設備の状況を教えてください

1. 設備がある (無菌室 ・ クリーンベンチ)
2. 設備がない (共同利用の契約はありますか? ある・ない)

Q5. 現在、勤務している薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の啓出を行っていますか。

1. 啓出している
2. 啓出していない

C-OJT 同行訪問を行って、あなたの成果(変化)について、以下の問いにお答えください。

Q1. 在宅訪問に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい。

1. そう思った
2. ややそう思った
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q2. 多職種との連携にこれまで以上に積極的に取り組みたい。

1. そう思った
2. ややそう思った
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q3. 患者の情報を把握する能力が向上した。

1. 向上した
2. やや向上した
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q4. 患者とのコミュニケーション能力が向上した。

1. 向上した
2. やや向上した
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q5. 患者家族等とのコミュニケーション能力が向上した。

1. 向上した
2. やや向上した
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q6. 多職種との連携する能力が向上した。

1. 向上した
2. やや向上した
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q7. 無菌調剤に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい。

1. そう思った
2. ややそう思った
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q8. 衛生材料等の供給に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい。

1. そう思った
2. ややそう思った
3. いままでと変わらない
4. わからない

Q9. 在宅訪問したい、またはひらいたりのある方がいますか？

1. いる
2. いない
3. その他 ()

Q10. 在宅訪問を進めるにあたり、どんなことが必要だと考えますか？

Q11.在宅医療において、薬剤師にどのような役割が求められていると思いますか。

Q12.在宅医療を進める上で、今後どのような職種とどのような連携が必要であると思いますか。

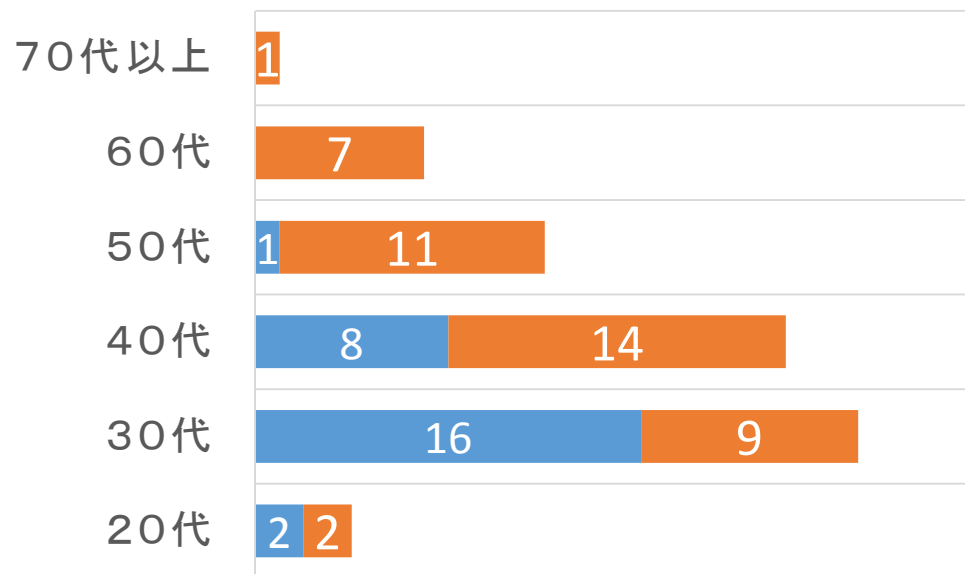
D-その他ご意見(自由記載)

ご協力ありがとうございました。記入漏れがないか、今一度ご確認ください。

アンケート結果(暫定)

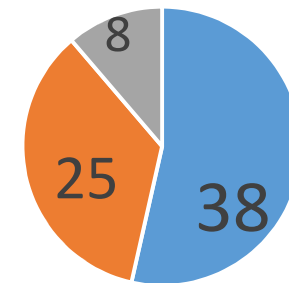
受講者の性別と年代

■ 男性 ■ 女性



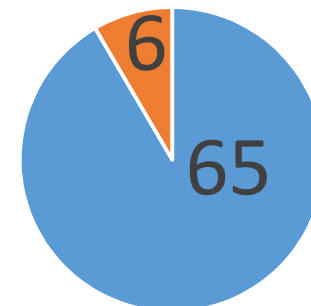
受講者の職種

■ 管理薬剤師
■ 常勤薬剤師
■ 非常勤薬剤師



在宅患者訪問薬剤管理指導の届出

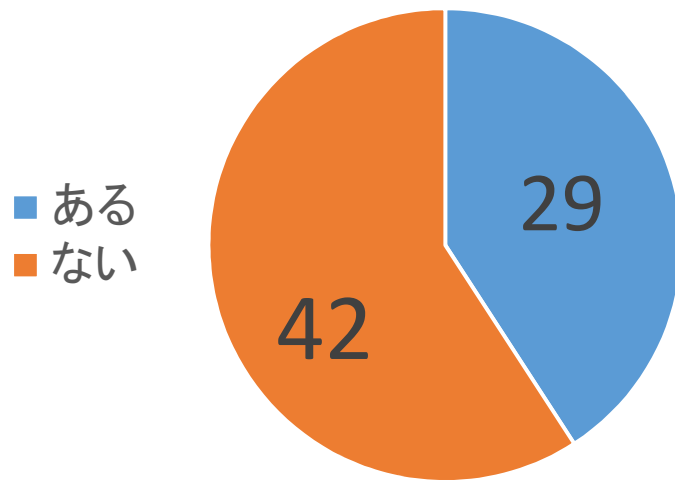
■ している
■ していない



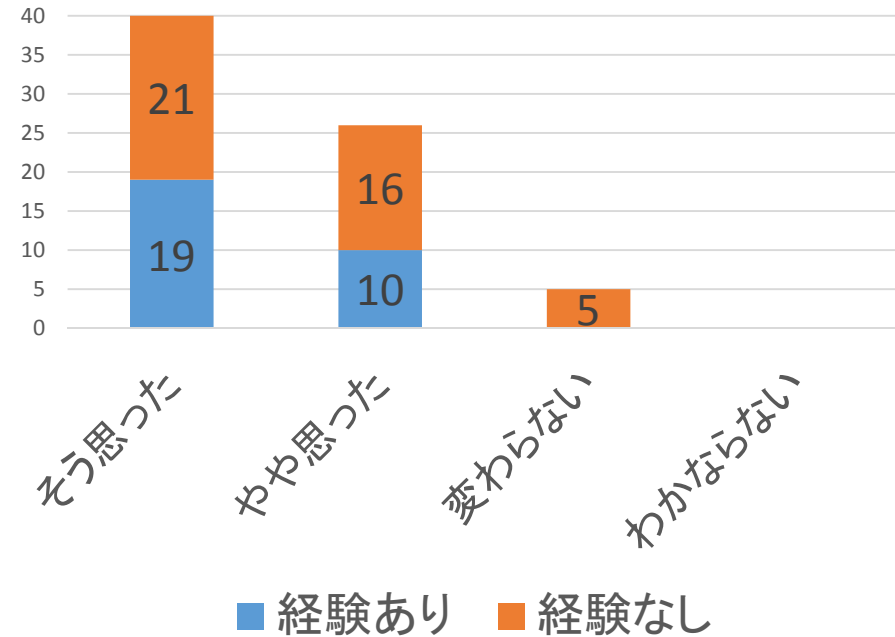
※アンケート結果は、資料作成時点で報告のあった71人について集計しています。

アンケート結果(暫定)

在宅患者訪問
薬剤管理指導の経験



在宅医療にこれまで以上に
取り組みたい



アンケート結果と 報告書(暫定)

報告書事例

パターンA

88歳男性 配偶者と同居 介護度5
肺アウペルギルス・肝細胞がん・慢性C型肝炎
1包化 朝(赤)夕(青)カレンダー使用

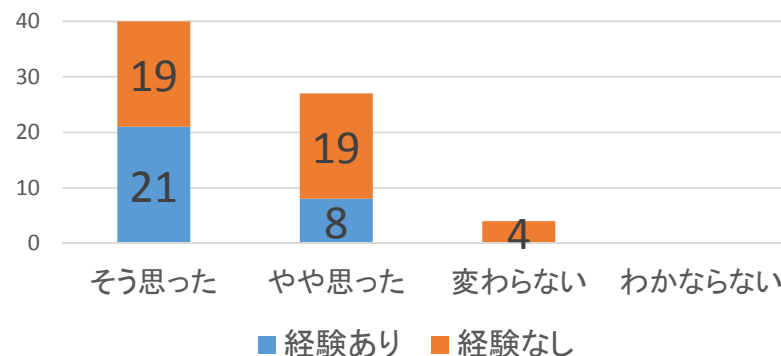
当初は分3毎食後処方。昼の残薬多数から医師に処方変更提案。現在の朝夕処方になる。

訪問時

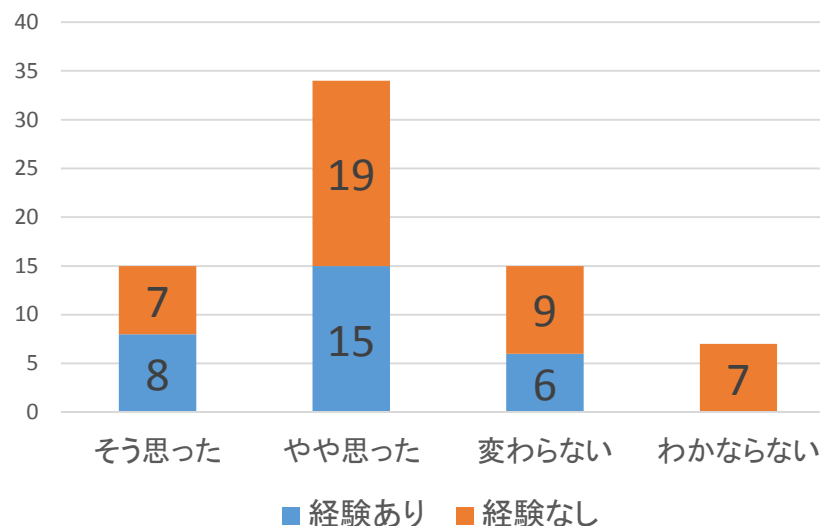
屯用カロナル・オキノームの使用量・使用方法と残数を確認。合わせて体調の変化を確認。

緩和ケアにおける関わり方、薬剤師の役割について学ぶ。医師・ケアマネ・訪問看護と連携し情報共有することで在宅生活を支えていることも学ぶ。

多職種との連携をこれまで以上に 取り組みたい



多職種との連携する能力が向上した



アンケート結果と 報告書(暫定)

報告書事例

パターンA

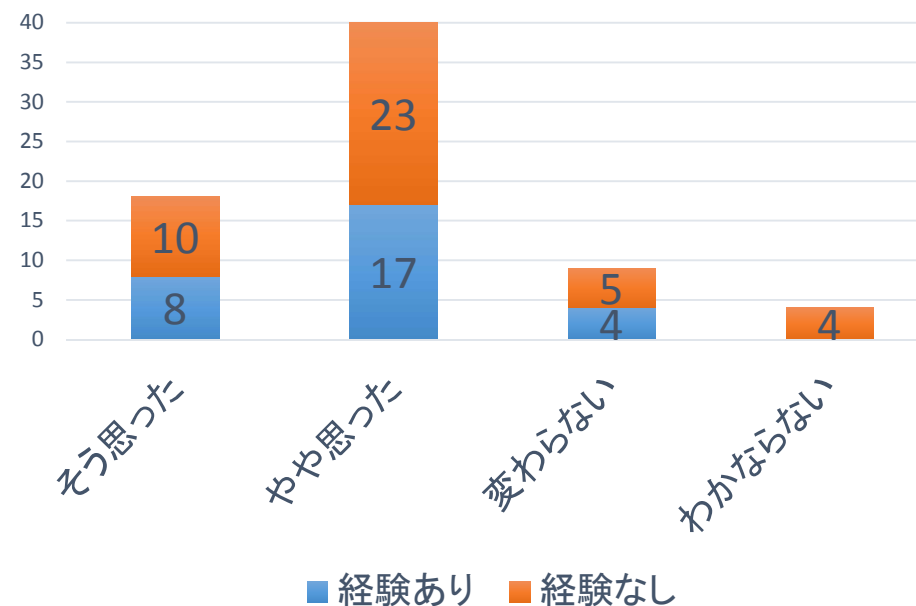
92歳男性・有料老人ホーム・介護度2
心房細動によりワーファリン服薬

入所前ワーファリン2mg服用。入所後コンプライアンス良好になり1.5mgに減量。

夜間、覚醒時に痙攣をおこし抑肝散服薬。
効果を認めるもむくみが現れる。代替えデパケンR
を医師に推奨し変更になる。デパケン併用により
ワーファリン増強(PT-INR1.6→2.6)ワーファリン減量
を医師に提言

医師・施設職員との協働により現場での素早い対応により薬剤師の役割を学ぶ

患者の情報を把握する能力が向上した



アンケート結果と 報告書(暫定)

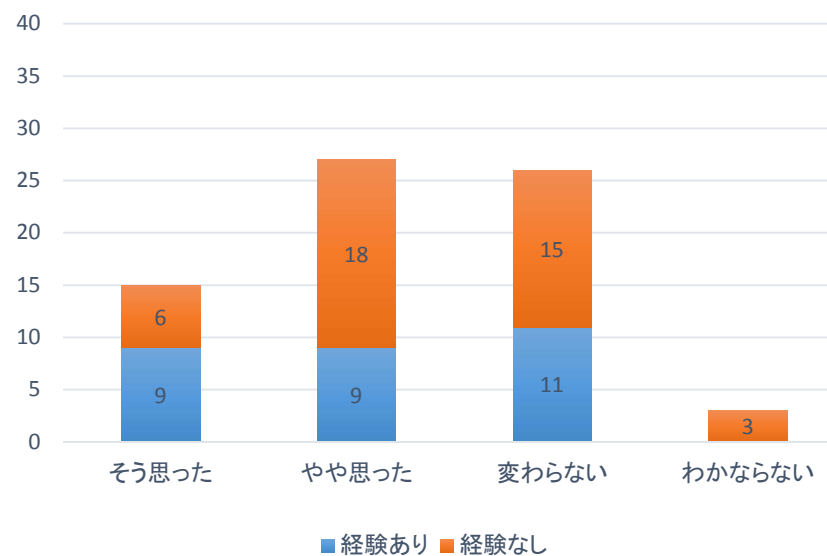
報告書事例

パターンB

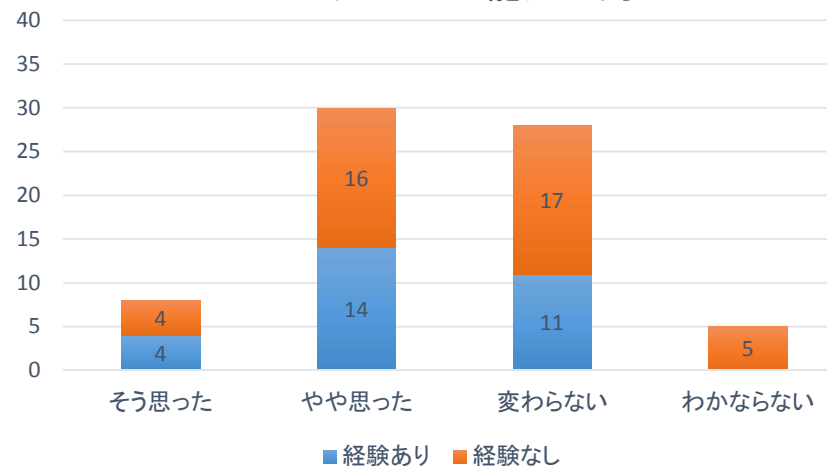
86歳男・介護度2
患者さんの思いや希望が聞き出せない

受講薬剤師が訪問していた患者。患者とコミュニケーションの取り方が分からず悩んでいた。講師薬剤師と同行訪問にて実際に患者さんの思いを聞くことができた。その思いに応じるための多職種との連携や協働方法も学んだ。

患者とのコミュニケーション能力が向上した

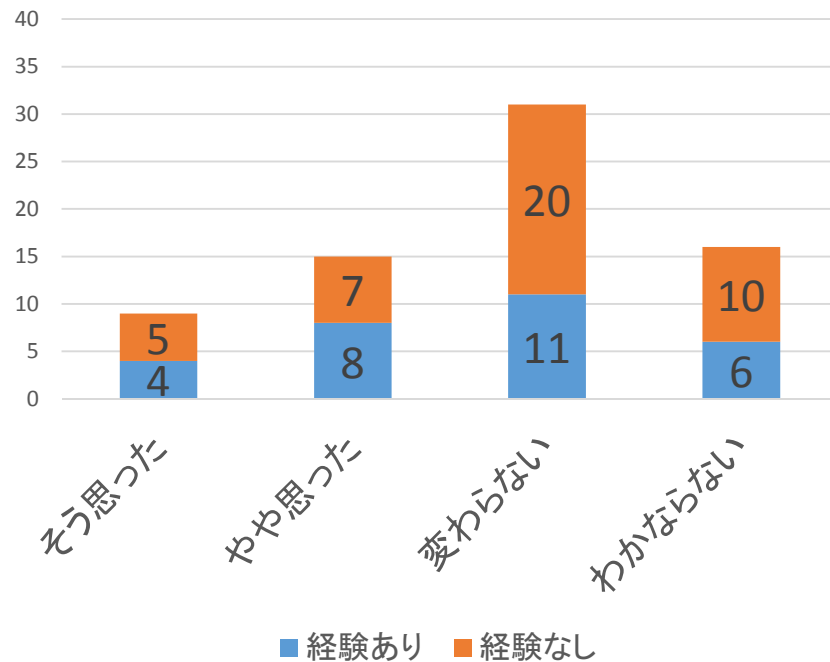


患者家族等との
コミュニケーション能力が向上した

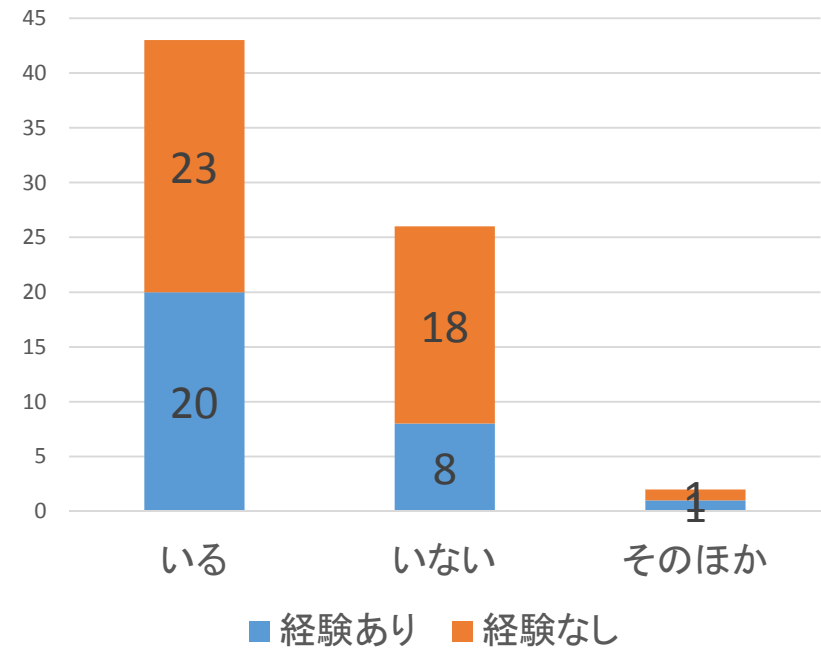


アンケート結果(暫定)

無菌調剤に対してこれまで以上に積極的に取り組みたい



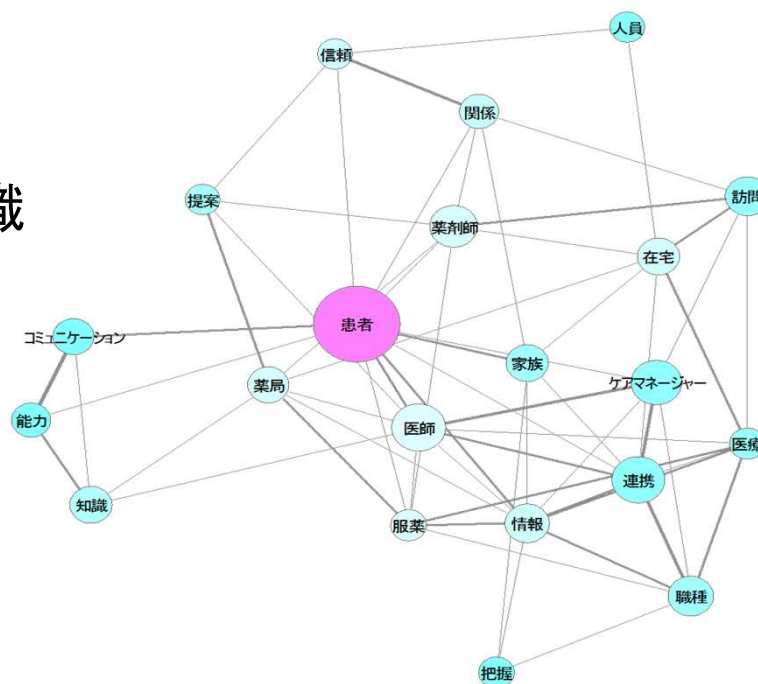
在宅訪問したい
または心あたりのある方はいますか



アンケート結果主な記述内容

Q10 在宅訪問を始めるにあたり、どんなことが必要だと考えますか

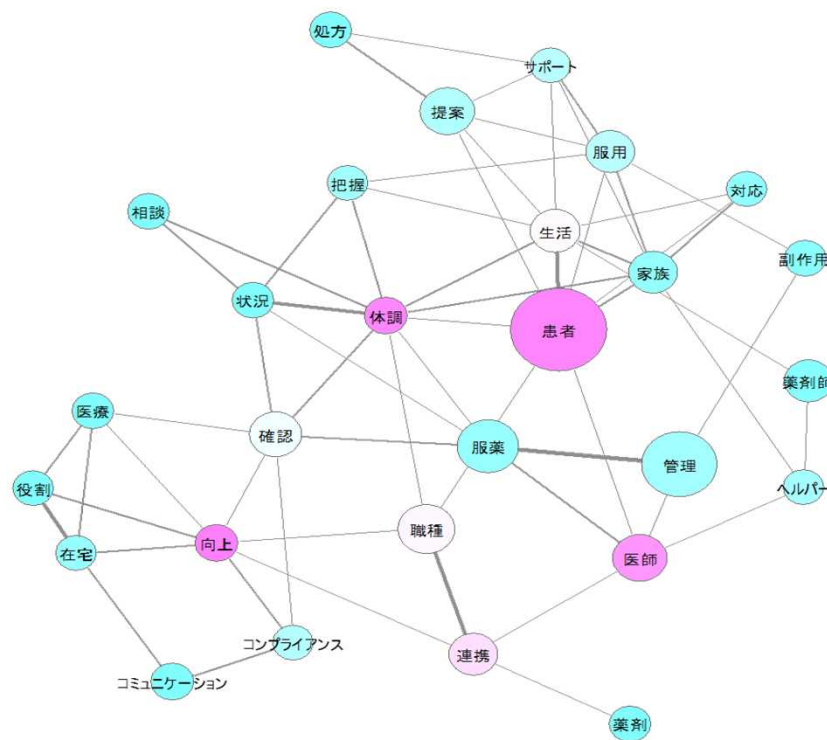
- 医師、ケアマネージャーとの連携
- コミュニケーションの能力や薬学的知識
- 患者や家族との信頼関係
- 対応できる人員配置



テキストマイニングによる共起ネットワーク

Q11 在宅医療において、薬剤師にどのような役割が求められていると思いますか

- 医師との連携
- 患者の体調の把握
- 服薬の管理や副作用の確認
- 服薬コンプライアンスの向上
- 患者の生活のサポート
- 処方箋の提案



テキストマイニングによる共起ネットワーク

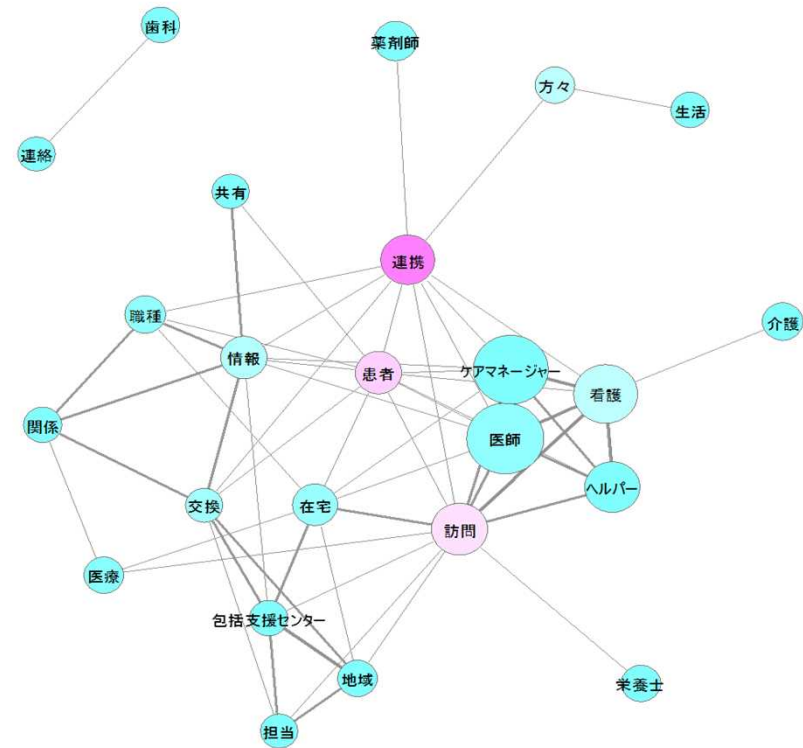
Q12 在宅医療を進める上で、今後どのような職種と どのような連携が必要であると思いますか

職種

医師、ケアマネージャー、看護師、ヘルパー、
包括支援センター、栄養士、歯科医師
(このほかに民生委員、理学療法士など)

どのような連携か

情報の共有や交換



テキストマイニングによる共起ネットワーク

受講者アンケートから

- 受講者アンケート回答者71名のうち、その半数以上の42名が在宅医療に対して経験がなかった。
- OJT研修をうけて、在宅医療にこれまで以上に組みたいと『思った』『やや思った』人数の割合は、**92.9%**。多職種連携をこれまで以上に組みたいと『思った』『やや思った』人数の割合は、**94.3%**であった。
- 患者の情報を把握する能力が向上したと『思った』『やや思った』人数の割合は**81.6%**。多職種と連携する能力が向上したと『思った』『やや思った』人数の割合は、**68.9%**であった。
- 患者や患者家族等とのコミュニケーション能力の向上については、『変わらないと思う』が**40%近く**であった。
- 無菌調剤の積極的取り組みについては、今回のOJT研修では「在宅医療においてかかりつけ薬剤師に求められる役割、どのような職種と、どのような連携が必要かを知る」に主眼においたためか、『変わらない』、『わからない』が**69.1%**となった。
- 今後、在宅訪問したい、または心あたりのある方はいますかでは、『いる』が**60.5%**であった。

受講者報告書の主な内容(報告の多かったもの)

- 多職種連携の様子を具体的にみることができた
- 処方提案の様子をみることができた
- 在宅訪問が生活支援につながっていることが分かった
- 訪問準備に必要なものが具体的にわかった
- コミュニケーション術について学ぶことが多かった
- 生活環境に応じた支援をみることができた
- その他
 - ・生活の場での患者さんの状況を見ることができた
 - ・嚥下状態についても食べている様子などから確認できた
 - ・往診同行による薬剤師の役割が分かった
 - ・カンファレンスに参加することができた
 - ・バイタルサインのとり方や評価の仕方が分かった
 - ・精神科領域の在宅医療の役割を知ることができた

受講者報告書から 受講者の気づき(事業効果)

- 地域の中で在宅訪問薬剤師は、薬や健康に関していつでも気軽に相談できる、かかりつけ薬剤師である。
- 主治医や多職種と連携する、患者に訪問し生活背景等を把握する、などを通して、患者の生活支援を行う。
- 生活支援を行うことで、真の意味で、服用薬を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導を実施できる。
- 訪問を行うことで患者からの信頼感が増し、処方医へのフィードバックや残薬管理・服薬指導を行うことができる。薬の副作用や飲み間違い、服用のタイミング等に関する、随時電話相談を受けやすくなる。

育成

かかりつけ薬剤師として

実践型研修を通して

- ・薬剤師の役割を具体的に理解することができるようになる。
- ・在宅医療に積極的に対応することで医師をはじめ多職種と連携し、患者の望む在宅生活に適切な残薬管理、薬学的管理及び必要に応じた医師への処方提案を行えるようになる。

まとめ

OJT研修は、目的を達成できるものであった

- OJT研修は本気で在宅医療を根付かせようとする薬剤師の地域医療における活躍・言動を近くで見ること、座学では学ぶことができない、かかりつけ薬剤師につながる多くの知見が得られた。
- OJT研修を通して、講師薬剤師と受講薬剤師がともに学ぶことで、かかりつけ薬剤師として両者が成長できる機会になった。
- 在宅医療に応じられる薬局・薬剤師の育成は、一層推進する必要がある。そのためには、医師や多職種のさらなる理解や協力が必要と考えられる。
- 来年度は、さらに緩和ケア・在宅看取りのできる薬剤師の育成も視野に、継続的・発展的な事業を実施する必要がある。

受講者は、在宅医療にこれまで以上に取り組みたいと考えており、このモチベーションを下げないよう県及び県薬剤師会としてどのようなフォローアップを行うかが課題である